

高度先進矯正治療診断学実習

Training of Treatment and Diagnosis in Highly Advanced Orthodontics

キーワード

- ① 高度先進口腔医学
- ② 歯科矯正学
- ③ 不正咬合
- ④ 顎発育
- ⑤ 口腔機能

授業概要

歯科矯正治療の術式を学習し、装置の製作を5つの実習から修得する。(1)顎口腔機能診断実習および矯正線屈曲、蝟着実習。(2)各種矯正装置製作実習(舌側弧線装置、急速拡大装置、顎機能矯正装置、床矯正装置)。(3)タイポドント(マルチブラケット装置)実習。顎顔面の骨格および歯列の包括的三次元診断を習得する。(4)不正咬合における歯列不正を三次元的に診断実習する。(5)不正咬合の背景因子としての、顎変形、および顎口腔機能異常を三次元的かつ包括的に診断実習する。以上の実習を通じて、歯科矯正学の知識の深化と研究手法のを身につけることを目的として開講する。

授業科目の学修目標

- ① 歯科矯正治療の術式を学習し、装置の製作を実習から修得する。
(各種矯正装置の製作実習、タイポドント実習)
- ② 顎顔面の骨格および歯列の包括的三次元診断を修得する。
(歯列不正の三次元診断、顎変形の三次元診断、加賀訓導の三次元診断)

授業計画

- ① 矯正線屈曲、蝟着実習。12コマ
- ② 各種矯正装置製作実習(舌側弧線装置、急速拡大装置、顎機能矯正装置、床矯正装置)。12コマ
- ③ タイポドント(マルチブラケット装置)実習。12コマ
- ④ 不正咬合における歯列不正を三次元的に診断実習する。12コマ
- ⑤ 不正咬合の背景因子としての、顎変形、および顎口腔機能異常を三次元的かつ包括的に診断実習する。12コマ

以上の実習を通じて、歯科矯正学の知識の深化と臨床課題を発見する能力を育成すること、課題解決の為の研究手法を身につけること、を目的として開講する。

実習担当教員 不島健持 川合暢彦 小野崎純 佐藤允俊 尾崎博弥 萩原俊一

教科書および参考書

Contemporary Orthodontics, Proffit, W.R. Fields, Jr. A.W., Sarver D.M. (4th Eds.), St. Louis, Mosby co. (2007) The Neurobiology of Orthodontics, Pimenidis M.Z., Springer (2009) Science and Practice of Occlusion, McNeill C. (ed.), Illinois, Quintessence Publishing Co. (1997)

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

高度先進矯正学入門の学習内容を整理し、理論を熟知して実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 矯正歯科技工の基本手技を修得する。
- ② 各種矯正装置の作製法と作用機序を理解し、矯正治療が実践できる。
- ③ マルチブラケット法の治療手技を修得する。
- ④ 診断に基づき、治療計画を立案し実践することができる。
- ⑤ 顎顔面頭蓋の成長発育と口腔機能の成熟を理解し、包括的三次元診断を実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
25%	0%	25%	0%	0%	0%	50%	0%

評価の要点

- ・試験は実習終了後、授業計画で行った実習の知識の理解度を判定する。1回25%
- ・レポートは、授業計画の5項目について課題を提出する。5%×5回=25%
- ・実技は、授業計画の5項目についてプロダクト達成度を判定する。10%×5回=50%

理想的な達成レベルの目安

高度先進矯正治療診断学実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。